

なかがみ

第142号

編集と発行
中部農業改良普及センター
〒904-2155 沖縄県沖縄市美原1丁目6番34号
(沖縄県中部合同庁舎2階)
電話 098-894-6521
FAX 098-937-2502

儲かるマンゴー農家への近道、講習会に参加しよう！

💡 ポイント1 小さいながらも儲かる産地をめざして

沖縄本島中部地区におけるマンゴーの結果樹面積は21ha、生産量は100tです（H30年）。これは、沖縄県全体に占める割合で見れば1割未満です。しかし、近年の中部地区はマンゴー産地としての評価が高まっています。

💡 ポイント2 高まる中部地区の産地評価

令和元年度の第12回マンゴーコンテストでは、JAおきなわ具志川支店果樹生産部会が中部地区初の団体賞を受賞しました。

令和2年度はJAおきなわのマンゴーブランドである「美らマンゴー®」の出荷量が、前年比40倍以上の46kgに躍進しました。

令和3年度の第14回マンゴーコンテストでは、中部地区初となる最優秀賞（県知事賞）を仲村盛宏さん・政将さん（沖縄市）が受賞しました。



最優秀賞受賞
仲村盛宏さん

💡 ポイント3 儲かるポイントが身に付く講習会

『儲かるマンゴー産地』の背景には、20年以上続く定例栽培講習会の存在が欠かせません。農業改良普及センターとJAおきなわが共同開催している講習会では、月々の栽培管理内容だけでなく、最新の研究成果や篤農家の技術を共有するほか、新技術の提案等を行っています。

💡 ポイント4 『タイベック®反射板』で産地を活性化

令和2年から『コロナ禍でも売れるマンゴー』を作るために試験導入した『タイベック®反射板』は、果実の色のり改善に効果を発揮しました。そこで、令和3年度は反射板を全生産者で利用できる様に、JAおきなわ中部地区果樹生産部会として福祉作業施設にタイベック反射板の組み立て作業を有償で委託しました。これにより、果実品質向上に伴う生産者の所得向上だけでなく、地域社会への利益還元に取り組むことができる様になりました。



タイベック®反射板
で色のり改善

※ 講習会参加希望者はお気軽にお声掛けください。

（農業技術班 高橋 健）

キクの重要害虫アザミウマ類の防除対策

キクの栽培期間を通して、害虫対策とくにアザミウマ類の被害に悩んでいる生産者も多いのではないのでしょうか？

「ちゃんと薬剤散布しているのに・・・」と思っている方に、アザミウマ類の防除ポイントをご紹介します。

☀️ ポイント1 初期防除が大事

*親株の頃から防除を徹底し、虫の発生密度を抑えましょう！

本畑に持ち込まないようにしましょう

虫の発生を低密度で維持することが成功の秘訣です

*生育初期は、農薬散布+粒剤処理で防除を徹底しましょう！

防除に成功する農家は、散布剤と粒剤を併用しています



☀️ ポイント2 継続的な定期防除

*農薬散布間隔(目安7~10日)を空けすぎないようにしましょう！

間隔を空けすぎて虫数が増加すると、発生を抑えられず被害が増えます

*ほ場における害虫の発生状況を知りましょう！

被害状況、農薬散布のムラが無いかわよく観察します

☀️ ポイント3 薬剤ローテーション散布で抵抗性管理

*IRACコードを活用した作用機作の異なる農薬を交互に使いましょう！

同系統農薬を連用すると害虫が農薬抵抗性を獲得し防除が困難になります

IRACコード表を活用した防除の一例

IRACコード	サブグループ	商品(例)	回数小計	散布日付			
				9月10日	9月15日	9月22日	10月2日
1A	カーバメイト系	オンコルOK粒剤	1	○			
1B	有機リン系	ジェイエース水溶剤	0				
		トクチオン乳剤	1				○
		マラソン乳剤	0				
2B	フェニルピラゾール系	プリンス	0				
3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	トレボン	0				
4A	ネオニコチノイド系	ベストガード水溶剤	1			○	
5	スピロニ系	ディアナSC	0				
6	アベルメクテン系	アグリメック乳剤	1		○		
・	・	・	・	・	・	・	・

IRAC(アイラック)コードとは、

殺虫剤を「作用機作」ごとにグループ分けし、害虫に対する抵抗性抑制を効果的で持続可能なものにするための薬剤選択の指針。

・1Aと1Bは作用(数字)が同じなので連続散布は避ける。

・1Aと4Aなど作用(数字)が異なる薬剤のローテーションが望ましい。

注意：農薬を使用する際は、ラベルに記載されている内容をよく確認すること

他に・・・、

アザミウマ類が発生しているかどうか、観察することも重要です。新芽付近の葉裏をチェックしましょう。また、ほ場周辺のキク科雑草(寄生雑草：センダングサ、オニタビラコ、オオアレチノギク)にも潜んでいることから、除草にも努めましょう！

(農業技術班 屋良 久美子)

ニンジンのネキリムシ類発生注意！

ネキリムシ類（タマナヤガ、カブラヤガ等）の防除は、発生前からの対策が重要です。発生後、成長した幼虫は薬剤が効きにくくなりますので、被害が拡大する前に早めに薬剤で対策を行いましょう。

ネキリムシ類によって地際の茎が食害される



発芽直後、地表から出る前に被害を受けている

使用時期：は種前、は種時

商品名	使用量	使用方法	使用時期	回数
ダイアジノン粒剤5	6kg/10a	全面土壌混和	は種前	1回
フォース粒剤	4~12kg/10a	全面土壌混和	は種前	1回
	4kg/10a	作条土壌混和	は種時	1回

使用時期：発芽後～生育期

商品名	使用量	使用方法	使用時期	回数
ガードベイトA	3kg/10a	株元散布	生育初期（但し、収穫7日前まで）	5回以内
ネキリエースK	3kg/10a	土壌表面 株元処理	発芽期～生育初期。ただし、収穫14日前まで	4回以内

※記載の登録内容は、令和3年8月1日現在のものです。農薬の使用にあたっては、農薬容器のラベルや最新の農薬登録情報を確認して下さい。
(農業技術班 野原 正司)

令和3年度 アグリチャレンジ講座 開催

農産物を活用した加工に関する講座として、令和3年度アグリチャレンジ講座を下記の内容で開催しております。コロナ感染症拡大により、例年と異なる受講形式（座学中心）となりましたが、受講者の事業形態に対応した内容の講座となり、好評いただいています。

9月28日には、「六次産業化・地産地消法に基づく総合化事業計画」を農林水産省より認定を受けた『食のかけはしカンパニー 代表取締役 篠原様』より、“特産品開発にあたっての注意点”と題して講演を通して、加工品作りの新たな発見や考え方を学ぶ機会となっております。

今回の講座で行った食品衛生法の改定とHACCPは、食品品加工者にとって大きく関わってくる内容です。普及センターでは、これからも加工やHACCPの取組を支援してまいります。

	内容・場所 (中部合同庁舎4階)	講師
第1・2回 8月31日(火) 14:00～ 16:00	1、食品衛生法・食品表示法改定について ・食品営業許可制度の見直し ・営業届出制度の創設 ・食品衛生責任者の設置対象施設の拡大 ・食品表示について 2、HACCPの考え方を取り入れた衛生管理	中部保健所 職員
第3回 9月28日(火) 14:00～ 16:00	・「特産品開発にあたっての注意点 ～食品メーカーの現場から～」	株式会社 食のかけはしカンパニー 代表取締役 篠原 辰明

(普及企画班 椎葉 有紀美)

九州・沖縄地区青年農業者会議 in 沖縄がリモート開催！

令和3年度九州・沖縄地区青年農業者会議が7月14,15日に開催されました。今回は緊急事態宣言下の沖縄県が開催県のため、初の大規模リモート開催となり、中部地区農業青年クラブのノーマン裕太ウエイン氏がプロジェクト発表の部畜産部門代表として、これまでの特産品の飼料化とブランディングの取り組み成果を発表しました。惜しくも九州代表を逃してしまいましたが、審査員からは地域資源を活かしたブランディングの成功事例として高い評価をいただきました。また、2日目の研修会ではリモート圃場視察として、中部から當間大樹氏が自身の観葉圃場の経営状況や工夫している点等を事前に動画撮影してYouTubeで公開し、リモートで質疑応答する新しい形の研修が実施されました。新型コロナの影響で集合研修ができない中での新しい形の成功事例となりました。(普及企画班 松村 美佳)

